

マドリーム通信

マドリッド日本人学校
Colegio Japonés de Madrid
文責 堀内正樹
令和2年2月3日 No.11

園児との避難訓練

日本では過去に大きな災害があった1月と3月は防災について考える機会が与えられます。

以前、私は、静岡県内の太平洋岸を校区とする学校に勤務していました。校区の地域では防災についての意識が高く、地域ぐるみで防災訓練をしていました。一番の災害対策は、もちろん津波対策です。3.11以後、校舎の屋上を避難スペースとする工事が急ピッチで行われたり、学区内に避難タワーや避難場所を兼ねた築山公園が作られたりしました。

中学校から少し離れたところに幼稚園がありました。中学生が家庭科の保育実習や職場体験学習でよく協力いただいていた。例年のように保育実習の打合せに行った際、実習の内容として中学生と園児の合同避難訓練を提案されました。お役に立てるならとすぐに引き受けましたが、その時私は「中学生が園児と一緒に行くかわいい避難訓練」を想像していました。

ところが、当日を迎え、津波からの避難訓練が始まると予想と反した光景が見られました。園児が避難の際にライフジャケットを着るとき、中学生がその手助けをするとはばかり思っていたのですが、年長児は教室に用意されたジャケットを自分で手際よく着ていました。さらに、自分のことを終えた者から年小児のライフジャケット装着の手伝いをしているのです。

そして屋上への避難が始まりました。先生方は実際に想定して教室の本棚や机を倒します。あまりの迫力にびっくりして泣き出す園児に「本当の地震の時はこうなるんだよ、泣いてないで自分で逃げなさい。」と指導していました。園児の避難訓練を手助けするつもりだった中学生は、幼稚園の先生の迫力に圧倒されるばかりでした。

訓練が終わり、「本当に津波が襲ってきたとき、私たちは子どもたちに何をしてあげられるかわからない。備えとして子どもたちにしてあげられることは、自分の命は自分で守るのだということを教えることだと思うのです。」と話されました。中学生には、「家にいる時に避難することになったら、小さい子に声をかけてね。」とお願いしていました。先生方の園児たちへの愛情を感じるとともに地域の繋がり強さを感じました。

普段、学校生活の中で私たちも児童生徒に「自分のことは自分でする」ということについて指導します。この避難訓練以後、どここの学校に勤務しても、この時期の避難訓練では「自立する」ことの大切さを「自分の命を守る」という視点から児童生徒に話しています。



2月の予定

1	土	
2	日	
3	月	全校集会 補充学習(中学部)
4	火	委員会
5	水	ボカディージョランチ
6	木	中学部期末テスト(中学部)
7	金	中学部期末テスト(中学部) 部活動
8	土	
9	日	
10	月	現地校との交流会(小学部)
11	火	新体力テスト
12	水	日本食ランチ
13	木	マラソン大会
14	金	部活動
15	土	
16	日	漢字検定
17	月	チャレンジ漢字テスト(小学部)
18	火	
19	水	中華ランチ
20	木	
21	金	部活動
22	土	
23	日	英語検定2次
24	月	
25	火	卒業式練習
26	水	ランチ(未定)
27	木	児童生徒企画集会
28	金	部活動(最終)
29	水	



書き初め大会

毎年、始業式の日に行き書き初め大会を行っています。今年も、1月7日に全校児童生徒が体育館に集まり学年ごとに与えられた課題に取り組みました。体育館は、足元からの冷たさがありましたが、物音も話し声もなく、集中して書き初めをする空間に身を置いていることが心地よく感じました。



もちつき大会

1月12日に本校体育館にて日本人会主催の「餅搗(つき)大会」が行われました。

毎年このイベントの趣旨には、スペインと日本の文化交流が盛り込まれており、マド日生は「一月一日」の歌の披露と、「羽つきの紹介」のお手伝いをさせていただいています。大勢の来場者の前でしっかりと役割を果たすことができました。



地震から身を守れ!

1月16日に「地震を想定した避難訓練」を行いました。臨場感を高めるための地震効果音が行く中、机の下に身を隠し、手元にあるもので頭を守っての避難です。避難命令があったから、1分33秒で全校児童生徒が前庭に避難することができました。

その後、担当教員から阪神淡路大震災の体験を交えた話を聞き、避難についての学習を深めました。



JAL 空育 航空教室

1月17日 JAL のキャビンアテンダント A.N さんによる「空育、航空教室」が開かれました。

飛行機の仕組み、飛行機に携わる人たちの仕事についてわかりやすくお話していただきました。児童生徒からは、キャビンアテンダントの仕事のやりがいや大変なこと、お客様との関わりの中で意識していること等についての質問が出ました。

「お客様の仕草からお客様が望まれること感じ取り、お客様からのコールがある前にお声掛けするように心がけている。」そうです。キャビンアテンダントさんの心のこもった目配り、気配りに脱帽しました。



職場体験学習 はたらくってどんなこと

中学部では、学校での学びと社会とのつながりを少しでも実感しようとキャリア学習に取り組んでいます。その一環として、1月21日に、日本人の方が働いていらっしゃる事業所の皆様の御協力をいただき、職場体験学習を実施しました。

お忙しい中にも関わらずご協力いただいた、「AGEYOKA」様、「Tori-key」様、「どん底」様に心より感謝申し上げます。

■ 中学部 2年 S.N

私は、職場体験学習で、「どん底」という日本食料理屋さんにお邪魔しました。私はそこで「働く」ということを学びました。どん底さんでは、主に掃除をさせて頂きました。怪我をしていた友達にもできるようなことも探してくださったり、手順を丁寧に教えてくださったりと、とても優しくしてくださいました。

体験中に、私が気になったことがありました。どん底さんは、スペイン人、日本人だけでなく、他の国の従業員の方もいらっしゃいました。しかし、そんなのは関係なく、みなさん仲が良く、和気あいあいとしていました。なぜなのか聞いたところ、常にコミュニケーションを取っているからだと言ってくれました。また、レストランに限らず、働くときは、チームワークが大事だとおっしゃっていました。

今回の体験で、私が最も心に残ったのは、「いいことは必ずある」という言葉です。これは、私が「これから大人になる私たちにアドバイスはありますか。」と聞いたときの返事です。「生きていればいやなことと同じだけいいこ



とがある。」そうおっしゃっていました。この言葉から私は、いやなことでもいいことも糧にして、未来へ突き進んでいかななくてはいけないということを学びました。

「働く」というのは、上手くいかなくて、くじけそうなことがあったとしても、それでも、くじけずに、仲間と協力し、いいことがあるその日までつき進む、そういうことだと感じました。疲れましたが、それも、「働く」ということなのだと思います。今回のキャリア学習を通して、大人に一步近づいた気がします。

■ 中学部 2年 N,M

今回の職場体験では、去年と違ってもっとお客さんへの対応について学びました。僕は、昨年、接客よりも力仕事を多くしました。僕は、昨年やった、肉のパッキングや水まきの方が接客より好きです。けれども、苦手だからこそその経験が出来て良かったと思いました。

この経験を振り返ってみると店員さんは、みんなお客さんのために全てを尽くしていました。この「全てを尽くす」と言うのは、日本ならではの考え方だと思います。その考え方を、小林さんが言っていた、食文化がとてもしっかりスペインで生かしていました。

特に印象に残ったお客さんへの気遣いは、店員同士で仲が良くても「ありがとう」や「お願いします」の言葉を省略しないことです。もし、お客さん



に言葉の省略に気づかれたら、「このレストランはそんなに真剣ではないな」などと思われるかもしれないからです。椅子が、斜めを向いて「どうぞ座ってください。」の意味を表していることもその一つです。お客さんに気づかれる為でなく、お客さんのためにするこういったサービスはこのレストランにたくさんありました。

■ 中学部 3年 I,A

僕は、この職場体験学習でたくさんのことを学ぶことができました。

11時半くらいに尚と八木先生と「AGEYOKA」についてすぐに仕事を始めました。「料理をしたり、レストランの掃除をしたり、食べ物を切ったりしました。紅ショウガを切るのが大変で、下を見ながら切っていたから、首が痛くなりました。昼ごはんは、自分で作ったカツ丼を食べました。何よりも美味しかったです。

昼ごはんを食べ終わったときに、お客さんがどんどん来ました。僕は、ウェイターをして、飲み物や食べ物を運んだり、コップを洗ったりしました。お客さんと接した時間は、短い時間でしたが、本当に疲れました。

そして、レストランでは、お客さんが来るまでたくさん準備が行われることを知りました。カツ丼の味とこの体験は、二度と忘れられないものになったと思います。

■ 中学部 3年 S,Y

私は今回、Tori-key で職場体験をさせていただきました。この体験を通していろいろなことを学びましたが、その中でも特に大切だと思ったことが一つあります。それは、お客さんの存在を常に意識し、大切にすることです。まず、仕事をする前に 10 個のルールと書かれた紙をいただきました。そこには、「お客様に背を向けない」「お客様にアレルギー、食べられないものを確認する」「身だしなみはきちんとする」など、お客様に安全に気持ち良くレストランを利用してもらうためのことが書いてありました。

また、仕事をするうえで重要なことはコミュニケーションだと教えてもらいました。それはもちろんお客様との間でもですが、仲間同士の声掛け、コミュニケーションが大事だと言っていました。それは、職場の人間関係をよくする笑顔あふれる明るい雰囲気のお店になり、お客様が気持ちよく過ごせるからだろうと思いました。ほかにもお店が忙しくなった時に気を付けていることは何かと尋ねたところ、笑顔を絶やさず、焦りを見せないことだと言っていました。

Tori-key はオープンキッチンになっているため、料理をしている人の姿がお客さんの目に入ります。店長の小林さんは、「職場は劇場」だと考えて仕事に取り組むように」言っているそうです。さらに、椅子が斜めになっている理由を聞いたところ、お客様が座りやすいようにおもてなしをする心を表しているとのことでした。椅子一つでもお客様のことを考えていることには大変驚きました。

将来、どのようなバイトや職業についても必ず人と関わることになると思います。今回の学びを生かし、日々の学校生活でもクラスメートや先生、親の存在にももっと目を向けてみようと思います。



■ 中学部 3年 H,N

僕は、先日の職場体験学習で、いろいろなことを学ぶことが出来ました。

僕は、今回レストランのAGEYOKAというところに行きました。その日は、従業員が 3 名いてその中で僕たちがお手伝いするという形でした。職場体験スタートの時は、まず、はじめにデザート作りと掃除をさせていただきました。まだ、不慣れたのと緊張で上手く動けずバタバタしてしま

たが、幸い営業時間外だったため、お客様に醜態を晒すようなことはありませんでした。次に紅シヨウガを千切りにする仕事を出されました。意外にもこれは手間がかかるもので、終わるのに 30分から40分程必要として、切っている最中はずっと下を向いているので途中から首や肩が痛くなりました。これを毎日しているのだからお店の仕事というのは大変なんだと感じました。しかし、本当に大変なのはここからだったのです。

そうこうしている内に営業時間になりました。そうすると今まで静かだった店内がいきなり賑やかになりました。そこからはまさに戦争のような忙しさで、オーダーが来たら作業に入り、調理を終えて皿が動けば次のオーダーに取りかかる、この繰り返しでした。本来この忙しさの中ならば、僕たち研修生は邪魔者ですが、それでも僕たちに仕事を与えてくださいました。ちなみに僕は日本語しか話せないのが調理の手伝いを任せられました。その時点では、だいぶ慣れていたので、従業員の方が作業をしながらも調理の手順を教えてください周りよりも遅れていましたが上手に動くことができました。そこから約一時間、それが続き、そこで職場体験は終わりましたがとても大変でした。

最後に、僕はこの体験を通して、僕たちが何気なく通っているレストランも、その裏では、お店の人が汗水垂らし、苦勞をしながら料理を作っていたんだなと思いました。



■ 中学部 3年 T,A

僕はこの職場体験で2つのことを学びました。

1つ目は仕事でのマナーです。僕がお店で仕事をしているときに友達と話をしていて、注意を受けました、それは仕事にしゃべってはいけないのはもちろんですが、いちばんの理由はケガをするかもしれないからです。それを聞いて僕は気をつけようと思いました。

2つ目は働くことの大切さです。僕は最初は楽な仕事をするかと思いましたが、大間違いでした。仕事を終えたあとは、手がひりひりして腰が痛かったです。仕事をすることは大変なことなのだと思います。

これらの経験を生かして僕の将来の夢でもある通訳士になるために努力していきたいです。



マリア校との交流に向けて

小学部では2月10日にMajadahondaにある「マリア校」の児童との交流会を計画しています。それぞれの学校の児童が「学校や遊びの紹介等」を通して、それぞれの国の文化について理解を深めていくことをねらいとしています。今年オリンピックの年です。「マドド・マリア-ミニオリンピック」を開催する予定です。大会に向けて5、6年生が中心となり準備を重ねています。楽しみです。



マラソンに向けて

2月13日にマラソン大会を実施します。

今年も中休みを使っの「体づくり」が始まりました。中休みの10分ほどを使い、運動場で走り込みをしています。

気持ちを奮い立たせるBGMが流れる中、「時間内に何周走るか、マラソン週間の間に何周走るか」等、自分に合った目標をたてて取り組んでいます。小学部5年生ともなると時間内に10周ほど走ることができるのだそうです。教員もいっしょに取り組んでいます。

今年も全員完走、当日の目標達成を期待しています。



応募作品入選おめでとう

夏休みの作品展で日本香堂主催「ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール」に応募した、小学部2年のY,H君の作品が入選し、「さだきちくん賞」をいただきました。お盆のとき家族と一緒に花火をした時のそれぞれの人物の表情が、画用紙いっぱい描かれています。



ほのぼのとした家族のひとときが浮かんでいきます。
おめでとうございます。